

年頭の挨拶

真宗大谷派開教司教

大谷裕



海外在住の全ての同朋の皆さまに、新年のご挨拶を申し上げます。

皆さま方には、平素より仏法聴聞につとめられ、法義相続・本廟護持の尊い御懇念を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。
二〇一九年からの新型コロナウイルス感染症の拡大により世界中の人々が見えない不安に襲われていた中では

じまつたロシア連邦によるウクライナへの軍事的侵攻。多くの尊い命が犠牲になつているこの争いも未だ終わりが見えません。さらに昨年からは、追い打ちをかけるようにイスラエル、パレスチナにおける大規模な軍事衝突が起りました。
この争いが絶えない世界を生きる一念仏者として、自身に何ができるのか、どのように向き合えばよいのか、とても多くのことを考えさせられます。
今なお恐怖と悲しみのただなかにいる方々が、一日も早く平穏な日常を取り戻せること

を心より願うばかりです。

昨年は「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」を無事お迎えすることができ、日本国内のみならず、海外開教区からも多くの方にご参拝いただきました。

私も皆さまと共に、宗祖のご誕生と立教開宗を慶ぶご縁をいただきましたことを嬉しく思います。

今、あらためてこのたびの慶讃法要を思う時、この法要のテーマ「南無阿弥陀仏 人と

生まれたことの意味をたずねていこう」の願いのもと、私たちはあらためてお念仏をとおりして気づかされる「いのち」の尊さ、互いの「いのち」が繋がることの有難さを全世界に届けなければならぬのではないのでしょうか。
二〇二〇年に父より

開教司教のお役目を譲り受けながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、長らく開教区へ赴くことができませんでしたが、昨年からようやく各開教区で皆様と共に報恩講をお勤めすることができ、「海の内外のへだてなく」の言葉のとおり、私たちはその身を置いていた場所を繋がり合うことができ「御同朋」であることを確かめさせていただいたこととごさいます。

今後は、各開教区での慶讃法要、世界同朋大会など、多くのご縁を皆様と共にできることをお願いいたします。新年のご挨拶とさせていただきます。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。



行事予定

一月

- 一日 修正会
- 七日 一月祥月法要
- 十四日 日曜礼拝
- 二十一日 家族礼拝
- 二十八日 永代経法要・総会・新年会

二月

- 四日 二月祥月法要
- 十一日 日曜礼拝
- 十八日 家族礼拝
- 二十五日 日曜礼拝

東本願寺

メーリングリスト

別院の活動についての最新の情報をメールにて随時配信しております。配信メールをお受け取りになりたい方は、寺院公式ウェブサイトに hbht-la.org にてメーリングリストにご登録いただくか、別院事務所 (213) 626-4200 または info@hbht-la.org までご連絡下さい。

年頭の挨拶

真宗大谷派宗務総長
木越 渉



二〇二四年の年頭に
あたり、開教区の皆さ
まにご挨拶を申し上げ
ます。

皆さまにおかれまし
ては、平素より各開教
区での活動にご尽力い
ただいておりますこと
と厚く御礼申し上げます。

さて、二〇一九年よ
り猛威を振るった新型
コロナウイルス感染症
の影響も落ち着きをみ
せ、京都も沢山の人で
あふれるようになって
まいりました。

昨年四月には宗祖親
鸞聖人御誕生八百五十
年・立教開宗八百年慶

讃法要が円成し、日本
のみならず、海外から
も多くのご参拝をいた
だきました。昨年の報
恩講の挨拶でもお伝え
させていただいたよう
に、長期間、仏法聴聞
に集う場を開くことが
難しい状況が続きまし
たが、慶讃法要がお勤
まりになったことで、
無意識の内に渴望して
きた「集い聞く」尊さ
を、あらためて実感す
ることができたことで
ございます。

今後、各開教区で厳
修される慶讃法要、世
界同朋大会の開催な
ど、様々なかけがえの
ない御仏事をいたたく
中で相共にお念仏を申
してまいります。

そして、是非京都に
お見えの際には、親鸞
聖人の御真影がおわし
ます真宗本廟にお参り
いただき、その御もと
であらためてお念仏
のみ教えに出遇いなお
し、信心の灯を生活の

場に持ち帰り、相続し
ていただくことをお念
じ申し上げ、新年の挨
拶とかえさせていた
きます。

本年も、どうぞ宜し
くお願いいたします。



別院より

新年のご挨拶

輪番 伊東憲昭

明けましておめでと
うございます。皆様が
良い新年をお迎えされ
たことをお念じ申し上
げます。

昨年、宗祖親鸞聖人
御誕生八百五十年、立
教開宗八百年記念法要
が京都のご本山にてお
勤めされました。約一
ヶ月の法要期間中、北
米開教区の全寺院から
多くのご門徒とご一
緒に団体で京都まで赴
き、参拝することがで
きました。そして私達
は参拝を通し、歴史を
振り返りつつ、教えを

謹賀新年

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

東本願寺ロサンゼルス別院職員一同

永代経法要及び

別院創立百二十周年記念行事

(総会・新年会)

一月二十八日(日) 午前十時より

詳細については改めてお知らせ致します。

改めていただくことが
できました。

別院では、本年は創
立百二十周年となり
ます。また二年後の
二〇二六年は当院が現
在地に移転してから
五十周年となる年で
す。皆様のお陰をもち
まして建築当初の美し
い姿のまま今日まで護
持されております。そ
れまでの間、理事会で
は記念行事に備え、建
物の修繕や改築を計画

しております。

もちろん、お寺の存
在意義として最も大切
なことは、言うまでも
なく、建物の美観如何
よりも、仏教や親鸞聖
人の教えが生き生きと
息づき、伝えられ、相
続される場であるとい
うことです。

今年もお寺で皆様と
お会いすることを楽し
みにしております。過
去二年の間はお盆祭

輪番新年挨拶

(2ページからの続き)

りをお寺で開催することとはできませんでしたが、幸い村田農場を厚意により村田農場を会場として開催することができました。そして今年はいよいよ再びお寺での開催となります。

皆様には別院に日頃より多大なるご支援、ご協力を賜り、改めて心より御礼申し上げます。今年も皆様と一緒に仏法を聴聞していきます。二〇二四年が皆様にとり素晴らしい年となることをお念じ申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしく願います。

開教使 長峯真如

あけましておめでとうございます。私事となりますが、昨年は多事な年であり、新たな生活のス

タートでもありました。特に、ロサンゼルス別院の開教使を拝命し、日本からカリフォルニア州に引越したことは昨年最も大きな出来事でありました。生活も大きく変わりましたが、日頃よりご門徒の皆様から支えられたおかげで、新しい環境にもすぐに馴染むことができました。心より感謝申し上げます。また、昨年はようやくアメリカ・日本共にパンデミックに終止符を打ち、慶讃法要の団体参拝や本山からの開教司教・参務・組織部長の報恩講視察など、多くのことが対面式に戻った年でもありました。ここロサンゼルス別院へ来てからのヶ月ほどしか経っておらず、まだ経験したことのない法要、行事などもありますが、日々、他の開教使の先生や別院職員、そしてご門徒の皆様から多くのことを学ばせて頂いております。そして、そんな素晴らしいサンガの一員であることを大変嬉しく思います。

しかし、ここで時間を過ごすほど自分の未熟さを思い知らされるのも事実であります。したがって、今年はさらに多くの経験を通じ、親鸞聖人の教えの理解を深めるとともに、皆様とご一緒に聞法を続けていきたいと思っております。皆様にとつて二〇二四年も素敵な一年となりますよう願っております。今年もどうぞよろしく願います。合掌

北米開教区より
新年のご挨拶

開教監督部 後藤謙彰

皆さま、あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。今年もロサンゼルスで迎える三回目の新年となります。私もやつとアメリカで暮らしていくことになれてきたように感じます。今年も昨年よりもたくさんのご門

徒の皆さまと出逢い、有意義な時間を過ごせることを楽しみにしつつ、共に親鸞聖人の教えを聴聞すべく精進してまいります。本年もどうぞよろしく願います。

開教監督部

長谷川智行



明けましておめでとうございます。旧年中は、別院や開教寺院、開教区に変わらぬご支援を賜り、心より御礼申し上げます。昨年もまた物価高騰や治安に関する事柄など身近な不安材料に加え、ウクライナやガザ地区での状況により私達の日常生活が様々な形で影響を受けました。しかし、そうした問題にかし、そうした問題により、私達の人生において最も大切なものは何か、深く考えさせら

別院各組織より
新年のご挨拶

別院理事会

理事長代理

アイリオン・オオタ

別院のご門徒の皆様は新春のお慶びを申し上げます。

本年はいよいよ別院創立百二十周年を迎える年です。当院は一九〇四年に泉田準城師(師の写真はロビー

に掛けられています)によりサンピード口通と四番通の交差点近くに設立された寺院、羅府仏教会に端を発します。羅府仏教会は南加において設立された最初の浄土真宗の寺院でした。以後数度の寺基移転の後、四十八年前の一九七六年、現在地に移転し、今日の建物 が建てられました。泉田師が寺院創設に際して描かれていた未来像は、日本人移民のみならず彼らの代々の子孫や全ての米国人に開かれたお寺にしようというものでした。その未来像は泉田師の優れた語学力があつて実現可能となつたのです。現代の私達が仏法を学び、仏法に我が身を照らし日常を過ごすことができるのも、泉田師をはじめ、歴代のご輪番や開教使の先生方、そしてお寺を護持されたご門徒の方々のお陰

であります。ここに深く感謝申し上げます。別院を仏法聴聞の場として護持し、次世代へと受け継いでいくことができるのは、平日より時間や寄付を惜しむことなく、献身的に古くなりつつある建物を点検、維持、修理して下さっているステイヴ村田さん、テッド大山さん、ゲイリー・カネモトさん、ジエームズ松本さん、ジエイソン・ワンさん、デイヴィッド池田さんをはじめとする壮年会有志の方々のお陰です。しかし、建築五十年を迎えようとする今、別院建物は配水や電気設備修理、本堂と集会所のエアコン設備の入れ替え、そして台所の改修など本格的な修繕工事が必要となつております。

また村田家の皆様には二年連続でお盆祭りが安全に開催できるよ

う、ソミスにある自らの農場を会場として提供して下さい、心より御礼申し上げます。今年度は再びお寺を会場としてお盆祭りを開催したいと思つております。

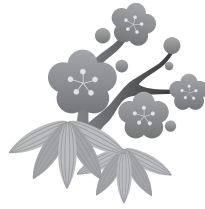
パンデミックによる困難の中、私達は徐々に、かつ慎重に礼拝や行事を対面式の方法に戻してきました。一方、お寺に足を運ぶことができない方々のために日曜礼拝の同時配信を継続しています。お寺でご門徒の方々と再会できたのは有難いことでした。昨年九月には長峯眞如先生を日本からお迎えすることができました。日英両語に堪能な素晴らしい先生です。またコーラスグループの大谷楽苑にもご参加いただき、本語や歌を教えてくださいたいです。まだ先生にお目にかかつていない方は是非お寺にお越し下さい。昨年十一月には大谷裕開教司、那須信純参務、延澤榮賢組織部長をご本山よりお迎えし、ご一緒に報恩講をお勤め致しました。

一年を通じ、多くの方々に様々な面において、お時間を惜しまず献身的に、熱意をもつてお寺に協力し、また助言をいただきました。伊東輪番をはじめ長峯、長谷川、後藤、ブレンニエン、幡、長、見義、今原、豊島、山田の各先生方には礼拝や寺報記事を通してご法話を提供いただきました。また、理事会をはじめ各組織の皆様には日頃より様々な面で力をお借し下さり、また助言をいただき、心より感謝申し上げます。船井一恵先生はじめ大谷楽苑の皆様には日曜礼拝で素晴らしい歌をお聞かせくださいたいです。ゲイリーさんとジエイソンさんには毎週同時配信をご担当いただきありがとうございます。川平忠秀さんと前原寛吉さんには庭園や境内を美しく維持していただいています。ジヤネット伊東さんや婦人会、そして当番の皆様には礼拝後の御齋や軽食をご提供、ご用意いただいております。スタッフのスーザン柏原さん、伊東山田見華さん、ナンシー・クリハラ、ジョンソンさんには日常の事務や行事計画、発行物作成や発送作業等をご担当いただいています。そして何よりも、お寺がお寺としてあり得ているのはご門徒の皆様のおも変わらぬご支援があつてのものです。理事会を代表し、この場をお借りして心より御礼申し上げます。そして末筆ではございます

理事会新年挨拶

(4ページからの続き)

が、理事長のペニー村田さんの一日も早いご快復を衷心よりお念じ申し上げます。代理として理事長の役割をお勤めさせていただいておりますことを光栄に存じます。



別院婦人会

二〇二三年も悲喜交々、様々な出来事が起きた年でした。改めて全ては無常であるということを身をもって教えられました。世界で多くの悲劇や混乱が起きる中ではありますが、私達の僧伽では嬉しい出来事もいくつかありました。パンデミックによる休止期間の後、初めての御斎のカレーライス

を五月の誕生会で提供することができました。父の日にはジャネット伊東さんはじめ婦人会の皆様のご協力によりオニギリ、スパムむすび、枝豆、果物とデザートの入ったランチバッグを皆様に召し上がっていただきました。七月のお盆祭りでは皆で集まって久しぶりに栗饅頭を作ることができ、とても楽しい行事となりました。

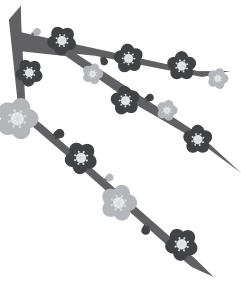
八月には新任の開教使として長峯真如先生を日本からお迎え致しました。先生の熱意に満ちたお仕事に、皆助けられています。秋の報恩講は京都の

本山から大谷裕開教司を導師としてお迎えし、お勤めすることができました。法要後に帰敬式も行われ、北米各寺院から五名が参加し、法名を授けられました。司教と共に本山から那須信純参務と延

澤榮賢組織部長も越しになり、皆様に土曜日の報恩講の集いで野菜ピザや日曜の報恩講後のおでんや美味しいデザートを召し上がっていただきました。

皆様からはいつも変わらぬご支援、ご協力をお借りし、この場をお借りして御礼申し上げます。別院が仏法聴聞の場として、また出会いの場としてあり続けていくことができると、尽力していきたいと思えます。

皆様もどうぞお体にお気をつけてお過ごし下さい。二〇二四年がより良い年となることをお念じ申し上げます。



ダーマスクール

明けましておめでとうございます。二〇二三年はお寺で再び集うことができるようになったり、とても楽しい年でした。二〇二四年はより多くのお友達と活動できることを楽しみにしています。毎月の祥月法要後に集まっています。どうぞ皆様もご参加下さい！

永代経法要

創立百二十周年記念
新年会・総会

今年の永代経法要は一月二十八日(日)午前十時よりお勤めされます。永代経名簿に芳名が記載された全ての方々並びにかつて別院を支えて下さった全てのご門徒を偲び、勤められる法要です。お寺に足を運ぶことができない方はフェイスブックでの同時配信にてお

参りいただくことができます。

今年は別院の創立百二十周年にあたり、新年会と総会と同時に百二十周年記念行事を全米日系人博物館を会場として開催致します。行事の詳細については一月にお手紙にてお知らせ致します。どうぞお誘い合わせの上、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

同朋のお悔み

- 飯屋カツ子様
十月十六日御命終
行年七十七歳
- 川島本山亭子様
十一月二十九日御命終
行年九十二歳
- 小椋サチ様
十二月十三日御命終
行年八十七歳

謹んで哀悼の意を表します。

